

令和4年度 第1回北海道住宅対策審議会 議事概要

日 時：令和4年8月25日（木） 13:30～15:30

場 所：ACU-A（アスティ45）12階 中研修室1206

参加者：（委員）下記のとおり

役職	氏名	現職
委員長	森 傑	北海道大学 大学院工学研究院 教授
委員	牧野 准子	ユニバーサルデザイン有限会社環工房 代表取締役
委員	八木 由起子	「北海道生活」編集長
委員	松田 裕子	ニセコ町商工会 監事 「BYWAY後志」編集長
委員	寺田 晃治	（一社）北海道建設業協会 建築委員会副委員長
委員	遠藤 謙一良	（公社）日本建築家協会 北海道支部 顧問
委員	佐藤 国雄	（公社）北海道宅地建物取引業協会 専務理事
委員	猪狩 ふみの	（社福）北海道社会福祉協議会 福祉施設部会 副部会長
委員	海野 淳	日本労働組合 総連合会北海道連合会 総合政策局次長
委員	中井 悦子	江別消費者協会 会長

（事務局）細谷建築企画監、大野住宅局長、渡邊住宅課長、太田住宅管理課長、伊藤課長補佐、大場課長補佐ほか

【次第】

1 開会

2 議事

（1）道営住宅の新たな配置について

資料1

（2）道営住宅における多様化するニーズへの対応について

資料2

3 その他

4 閉会

1 開会

<あいさつ、出席者の紹介等>

2 議事

(1) 道営住宅の新たな配置について

<事務局より資料1に基づき説明>

【松田委員】

テレワークスペースの確保とあるが、これからは市町村から提案を受け、活用方法を広げていくという考えでよいか。

【事務局】

そのとおり。

具体的には、子育て支援等のため整備した集会室等の一部をテレワークスペースとして道営住宅の入居者や地域の方々へ開放するといった提案が考えられる。

【牧野委員】

道営住宅に地域や入居者の困りごとを解決する要素が加わるとさらに住みやすい環境になっていくと思う。

さらに災害対策、再生可能エネルギー、移住促進に加え、理解がなかなか得られないような方の入居というのもこれから非常に大事になってくると考える。

【森委員長】

道の負担分と市町村の負担分の線引きは決まっているか。

【事務局】

公営住宅の本来の目的を阻害しない範囲で、入居者や周辺の方々の住生活の向上に資する使い方ができるのであれば、道営住宅の整備の一環として進めることは可能と考えている。

(2) 道営住宅における多様化するニーズへの対応について

<事務局より資料2に基づき説明>

【牧野委員】

入居後の居住状況の把握方法について説明願う。

【事務局】

年に1度、収入申告を出していただき、収入のほか同居している世帯人数等の確認を行っている。

【遠藤委員】

単身者の入居は現状では難しいということか。

【事務局】

高齢者や障がい者等の特に居住の安定を図る必要がある方については、単身でも入居可

能。困窮の理由も様々であることから、単身者の入居要件を緩和していくため検討しているところ。

【八木委員】

同居を前提とするルールそのものを変えることはできないか。

【事務局】

同居親族要件を少しずつ排除していきたいと考えている。

【森委員長】

困窮というのは必ずしも経済的な理由ではない可能性がある。困窮の定義について検討することが重要であると考えます。

【海野委員】

道営住宅が多様化するニーズに対応していくことは非常に重要なことだと思うが、本当に必要としている人が入居できるための取組を市町村等と連携し、引き続き行っていただきたい。

【事務局】

いただいたご意見を踏まえ、「道営住宅の新たな配置」としてモデル的に市町村から提案を受けながら新しい試みを行っていく。また、管理の面についても、今回の取組を手始めに、多様なニーズに対応できるよう、地域のニーズに合わせた道営住宅の活用を図ってまいります。

3 その他

<特になし>

4 閉会

以 上